

あなたが担当する事業について個人から政策レベルごとに記入してみましょう。  
それぞれが連動しているように記入します。

Practice

	個人	Interpersonal	組織	地域	政策
目的					
手法					

3. 様々な理論から

1. データを基にした事業づくりをする。
2. 地域住民が事業づくりの過程に参加する
3. 複数レベル(個人から政策)への効果を考慮した戦略をつくる。
4. ヘルспロモーションを推進する土壌や能力を向上させる。
5. 評価は、地域への還元と事業の改善を重視して行う。

SCの視点

重層的な戦略を意識した事業づくりをしましょう。人と人，人と組織，組織と組織などをつなぐには，企画する事業や活動が地域の住民や組織にとってどういう「意義や影響」を持つのか説明できなければなりません。

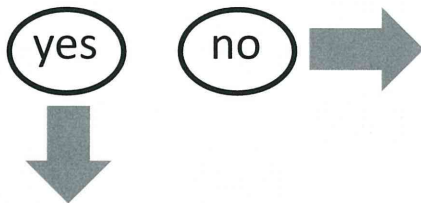
### 3-1-2 事業・活動を企画する体制づくり

ここからは地域保健事業を実際に実施するにあたり、計画から実施に関するまでの流れについて具体的なステップを紹介します。ここでは様々な事業や活動を企画する際の協力体制づくりについてご紹介します。事業を開始するにあたり課題や目的を検討するメンバーとなり、実際に事業・活動が始まった際の運営メンバーとは必ずしも一致しません(運営メンバーについては3-2参照)。

#### 1. 協力体制作り

事業・活動の実施にあたり、先ず重要なことは事業・活動を企画し、進める体制をどのように構築するかということです。地域には自治会、町内会、民生委員、保健や福祉に関する様々な委員や、NPOやボランティアグループなど存在します。このような既存の組織を活用した地域保健事業の導入もあれば、あえて全く新しい参加者やボランティアで事業の計画から含めて進めていくこともあります。いずれの場合でも、いくつかのポイントについて確認が必要です。

1. 協力体制は必要か？



- 常に協力体制の必要性を確認しながら事業を進めます。
- 協力体制が必要でなくても、広報活動を通し情報共有や地域の理解を促します。

2. どのような協力体制が必要か？

- |           |            |
|-----------|------------|
| 自治会・町内会   | 学校         |
| 民生委員・児童委員 | PTA        |
| 保健活動推進員   | 子ども会       |
| 社会福祉協議会   | 家庭防災員      |
| 保護士       | シルバー人材センター |
| 環境推進員     | NPO        |
| 消費生活推進員   | ボランティア団体   |

3. なぜその協力体制が必要か？

#### Practice

これから実施予定の事業をイメージして、記入してみましょう。

重要度※	個人・組織名	協力すべき理由・期待される役割	関心の高さ	強み	弱み

※はずせないキーマン・組織には◎、可能な限り必要には○、状況によっては不要△

## SCの視点

- 既存の組織ではない組織に声をかけ参画してもらう（ブリッジング）。
- 参画が無理でも意見を聞く。
- それぞれの組織の普段の活動がわかるような資料やリーフレットを共有する。
- あえて多世代の体制をつくることにより、地域の多様な資源を活かす。

多世代を巻き込み、地域の資源を活かそう！

一世代より多世代



多彩な地域資源の活用



地域のソーシャルキャピタルを活用した事例の研究から、様々な世代が関わっている事例であればあるほど地域の資源が活用されていることがわかりました。

高齢者を対象にした事業でも、いろいろな世代を巻き込んだ事業にすることによって、地域の多様な資源が活かせることにつながります。

## 保健師の目

事業の企画の際には、行政内の他部署や、より上位（市政、県政）の事業計画を把握しておくことが必要です。その理由として、下記の3点が挙げられます。

- ①行政の施策目標（方向性）と合致していれば事業が実現しやすくなります。
- ②プロセスは違っても目標が合致している事業や、目標が違ってもプロセスが重なる事業と連携することで、予算や事業展開が効率的になります。
- ③他部署の事業計画を把握することで連携が可能となり、新たなアイデアや人材が生まれ、保健福祉分野では解決できない課題の解決につながることがあります。

地域活動の担い手は他部署の取組みにも協力や参加をしていることが多く、行政の縦割りにうんざりしている例が少なくありません。様々な分野の事業が連携することにより、地域の将来に必要な活動の見通しが立ち、担い手にとって期待されている事柄が明確になります。担い手同士が連携することで、疲弊感を軽減し、活動の継続性を高めることにつながります。（どの分野から新たな担い手を探して育てるか、地域資源の何を使うかなど）

例：介護予防事業（保健）と見守り事業（福祉）と災害時要援護者支援事業（防災）  
障害児者活動（福祉）と緑化・公園愛護・道路保全の団体（環境・土木）  
認知症介護（福祉）と子育て支援（福祉）  
健康づくり（保健）と商業振興（ウォーキングルートの沿道商店街の活性化）など

### 3-1-3 健康・福祉課題、目的の共有

#### 1. 課題や目的の共有

事業・活動を企画する上で最も重要なことは、どのような課題があり、どのような目的を持ってその事業や活動を企画するかということにあります。

地域住民や様々な職種が関わる会議において、目的が明確でないと、後々事業のあり方や計画について様々な意見に左右され、結果として予定していた事が実施出来ない状況に追い込まれる可能性があります。

#### ■課題の共有と目的の設定方法

地域で事業を進める際にいわゆるワークショップといった手法により地域住民の声を効果的に拾い上げることが出来ます。ワークショップは単に意見を出す場を作れば良いのではなく、事前にそのワークの目的や必要な準備は何か、どのような雰囲気を作り出すかなど、目的や参加者によって様々な工夫が必要です。

- 具体的にグループで議論するテーマが重要です。
- 様々な意見が反映されるよう、対象者やグループメンバーの構成に配慮します。

#### ■ワークショップの運営とファシリテーション

<h4>1. 事前準備</h4> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目的やテーマの設定</li> <li>2. 参加対象者を決める</li> <li>3. 体制を決める</li> <li>4. 予算を決める</li> <li>5. 日時を決める</li> <li>6. 会場を確保する</li> <li>7. 必要なものを確保する</li> <li>8. チラシ等広報を開始する</li> <li>9. 資料を準備する</li> </ol>	<h4>2. 当日準備</h4> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 会場の準備</li> <li>2. 機材の準備</li> </ol> <h4>3. 全体ファシリテーション</h4> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. テーマの説明</li> <li>3. グループディスカッション</li> <li>4. グループ発表</li> </ol>	<h4>ファシリテーターの心がまえ</h4> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 結論を誘導せずに、様々な考えを引き出す</li> <li>• 聞いているサイン(表情やうなづきなど)を意識する</li> <li>• 説明した進め方と時間を守る</li> <li>• 目的やテーマから脱線しないようにする</li> <li>• 参加者に聞こえる声で話をする</li> <li>• 1人1人の意見を尊重する</li> <li>• 手順やルール等守らない人にはすぐに対応する</li> </ul>
<h4>4. グループファシリテーション</h4> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己紹介と役割説明</li> <li>2. 参加者の自己紹介</li> <li>3. お約束・注意事項の説明</li> <li>4. 手順の説明 → 具体例</li> <li>5. グループワーク開始</li> <li>6. 締めくくり (グループ発表等)</li> </ol>	<h4>付箋を使ったグループワークの例</h4> <p>第1ラウンド: 課題を出し合い、共有しよう!</p>  <ol style="list-style-type: none"> <li>1.1 1分間自己紹介</li> <li>2. 付箋紙に課題を書く</li> <li>3. 順番に発表しながら模造紙に貼る</li> <li>4. 意見交換しながら課題を整理する。</li> </ol> <p>第2ラウンド: 解決策を出して意見交換しよう! 「私ならこうする、こうした」</p>  <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 別色の付箋紙に解決策として『私ならこうする・こうした』を書く</li> <li>2. 順番に発表しながら模造紙に貼る</li> <li>3. 意見交換しながら解決策を整理する。</li> </ol> <p>第3ラウンド: 活動を発展させよう! 「みんなで何が出来る?」</p>  <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 別色の付箋紙に活動の展策として『みんなでできること』を書く</li> <li>2. 順番に発表しながら模造紙に貼る</li> <li>3. 意見交換しながら次のアクションを考える</li> </ol>	<h4>ワールドカフェの例</h4> <p>第1ラウンド: テーマについて意見交換し、共有する</p>  <ol style="list-style-type: none"> <li>1. テーマについて意見を出し、共有する。</li> <li>2. 席を移動し、新しい場所で意見を出し共有する。</li> <li>3. 数回席を移動し、最初の席に戻る。</li> <li>4. 各ラウンドで得た情報を共有する。</li> </ol> <p>第2ラウンド: (30分間) 意見を繰り返し出して同じテーマ又は違うテーマで話し合い</p>  <p>※ワールドカフェはより気楽に参加でき、記録も正確にとらず、テーブルの紙に自由に気付いたことを書き取るような形式が多いのが特徴。</p>

## 2. 目的の階層化

立てた計画の目的を設定し(レベル3程度), そのためにはどんなことを達成し, その後どういう目的が達成可能かを上下のレベルに書くことによって, 今回の目的がどのような意義を持っているかより明確にすることが出来ます<sup>3)</sup>。

(例)

レベル5 シニアと子どもたちが読み聞かせを通じた交流でお互いを理解する

レベル4 シニアが地域の学校や保育園などで読み聞かせをし, 社会参加する

**レベル3 シニアの絵本の読み聞かせ講座を実施する**

レベル2 認知症予防の講演会を開催し, シニアの絵本読み聞かせの事例を紹介する

レベル1 地域の絵本の読み聞かせグループが図書館で読み聞かせをしている

## Practice

これから実施予定の事業や活動をイメージして、記入してみましょう

レベル	目的	イメージする時期
5		未来の姿
4		本事業目的の達成後
3		本事業実施の時
2		本事業の準備中
1		実施済

## SCの視点

- 目的の共有はSCの醸成に欠かせないプロセスとして, 十分な時間と工夫をこらしましょう!
- 既存の組織の思いや考えを重視するとともに, 新しい住民やグループの意見も積極的に取り込みましょう!
- まちの未来を語る, 語ってもらうことによって, 地域に潜在する課題の多様性を認識し, 認識から連携の行動を生みます。

### 3-1-4 事業・活動の具体的な内容の作成

#### 1. 地区組織活動

保健師が地域において事業や活動を展開することは、地区組織活動の一環と言えます。地域全体に関する取り組みであったり、テーマ別(障害や特定の疾病等)の取り組みがあるが、どのような内容にするかは、地域アセスメント等に基づいたものである必要があります(第2章参照)。

地域を対象にした地区組織活動は、地域の課題を把握し、持続可能なシステムを構築することが求められます。難病や障がい者支援等のような特定のテーマでは、保健師の関わりが大きくなりすぎて、地域住民との協働を行政の補完的な関係にしないよう組織づくりをすることが必要とされています<sup>4)</sup>。こうした視点のもと保健師は事業や活動の内容について、以下の点について注意します。

- ① 地域アセスメントに基づいた客観的な課題の認識とデータに基づいた内容である。
- ② 一部の保健師と行政職員だけで決めて一方的に内容を住民に押し付けない。
- ③ 住民が主体的に、能動的に参画する内容となっている。
- ④ 事業や活動から期待される効果が明確であり、評価が可能である。

#### 2. 内容を決める方法

地域や住民の課題に基づいて事業や課題の内容を決める際、何をすべきかの判断が重要です。この際、既に実践されている事例、理論、自身の経験、課題の分析結果などがその根拠となります。様々な事例の中からどれが最も今回相応しいものかを判断するには、参考にする各事例が何のために行われたかを正確にとらえ、成功要因などを分析したうえで活動内容を決める必要があります。

#### ■ 成功する事業の特徴

- 包括的で、柔軟性があり、反応が早く、持続性がある
- 子どもだけを対象とせず、家族全体の一部であるという視点を持っている
- 家族だけを見るのではなく、近所やコミュニティとの関係性で見ている
- 長期的な方針の上で、対策や明確なミッション、継続的に発展させる工夫を持っている
- 事業や活動に必要な具体的な能力やスキル(指導技術等)を持った人たちが運営をしている
- トレーニングを受けた者により質の高い支援が提供されている
- スタッフがお互いの信頼と尊敬により強い関係性を構築できる環境にある

Work Group for Community Health and Development, The University of Kansas, Community tool boxより<sup>5)</sup>

## Practice

これから実施予定の事業内容を、イメージしてみましょう。

事業の種類は？		何をするのか？	
目的は？		誰がするのか？	
具体的な内容は？		いつから、どれくらいの間？	
参考となる事例は？		何が必要か？	
どのように評価する？		誰が何を知るべきか？	
他地域で可能か？		財源は？	

## SCの視点

- ・ SCを活かした事業や活動の事例を参考にしましょう(第6章参照)。
- ・ 他地域でも可能な内容を作ることは、事業や活動を継続するために重要です。
- ・ 地域のSCを活用するため、多世代を取り込んだ内容にしましょう。

## 保健師の目

〈団塊の世代の新たな活動を創り出した例〉

保健師は、退職者世代の方達を健康づくりの舞台への呼び込みたいと考え、退職者国保加入者へのアンケート、「これからの生き方」「年金獲得1億円」のキーワードを用いたシンポジウム、退職者世代向けのセミナーを実施しました。

今までの健康講座の参加者とは少し異なり、環境や趣味活動など幅広い分野に関心を持つ意識の高い退職者世代の方が集まりましたが、参加者は初対面でそれぞれの経験や想いが異なります。セミナーの運営だけでは参加者の意見をまとめることができませんでした。参加者の交流を深めようと企画した食事会(飲み会)が功を奏して、「今後も集まろう」と自主グループが結成されたのです。呼びかけを行った保健師の大きな喜びとなりました。

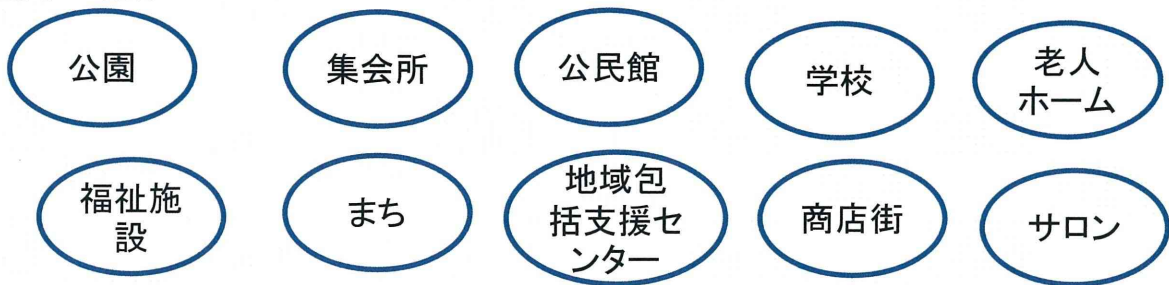
その後、早い時期に独自の活動が始まったのですが、会員相互の意見や価値観の相違によるメンバー間の対立や脱会もありました。保健師は調整役となりきれず、右往左往しました。会員一人ひとりの状況や気持ちを尊重するだけでなく、熱い議論も交わしました。少し時間がかかりましたが、会員それぞれが互いの存在を認め合う緩やかな集合体となりました。勿論、内外へ向けて発信する力も備えています。現在は、ウォーキングや勉強会などの健康づくりの活動にとどまらず、野菜づくり、介護施設への訪問、里山活動などの幅広い社会参加の活動が展開されています。

## 3-1-5 事業・活動実施の場所

## 1. 実施の場所

地域保健事業や活動をする場所は、活動内容が健康アウトカムに対して最も効果的に行われるために必要な場所選び、また既存の地域資源を有効に使うことが重要になります。一方、これまでの既成概念にとらわれない新しい場所の開拓をすることにより、それまでにはないネットワークの構築につなげていくことも大切です。場所は、長期的に活動の拠点ともなりえることを考えながら選んでいくことが求められます。

## ■ 物理的な場所



## 2. 場所の工夫

集いやすい良い場所を作ることは、日常的に接する機会のない人達を集めて何かをする場合にはとても大切になってきます。特に都市においては、日頃地域の活動や生活でも交流の機会がなかった人達が多い場合、価値観や地域に関する基本的な認識も様々です。そのような人達が交流がしやすいような「場」の設定は地域保健事業を進める上で重要な要素です。

## 良い場とは

- 良い場所とはそこに行く理由がある
- 良い場所とはそこに行けば長居したい理由がある
- 良い場所とは安全でいごこちがよい
- 良い場所は誰にとっても行きやすく温かく迎えてくれる

## 良い場の意義

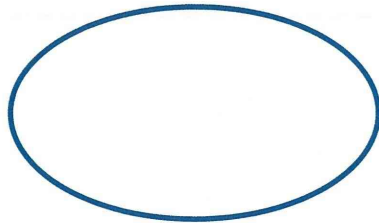
- 場に対する尊重と帰属意識がめばえる
- 異なる背景の人達の中に地域意識が生まれる
- 安心安全の意識が生まれる
- 地域の住み心地をよくする
- 他者の理解と尊重へつながる
- 意見を共有できる
- ソーシャルキャピタルの醸成につながる
- 目的の共有の場となる

参考: Work Group for Community Health and Development, The University of Kansas, Community tool box<sup>6)</sup>



Practice

これから実施する事業や活動の場所はどこがいいかイメージして、記入してみましょう。P64の良い場のポイントを参考に当てはまっているか考えてみましょう。



理由

期待出来ること

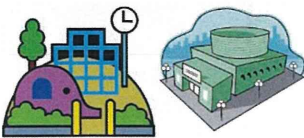
SCの視点

- 活動箇所が多いことは関わる人や団体、参加者の増加につながります。最初の場所で成功させたら、次の場所でも展開できるよう計画してみましょう。
- 事業や活動の時間だけでなく、終了後もゆっくりと時間が取れたり、落ち着いてお話ができるような場づくりも大切です。
- 特に多世代が参加する事業の場合には、いろいろな世代の視点を持って、アクセスのしやすい安全安心な場づくりによって交流をうながします。

活動の広がりが、人の関わりへつながる

活動箇所の多さ

活動範囲の広さ



関わる人・団体・参加者数の増加



地域のソーシャルキャピタルを活用した事例の研究から、活動箇所が多いこと、活動範囲が広いことが、関わる人、団体、参加者の増加につながっていることがわかりました。

ただし、活動場所の数や範囲を広げることが重要ではなく、それぞれの周辺地域や住民の健康づくりや福祉につながり、SCが高まることが重要です。

### 3-1-6 事業・活動の具体的計画(スケジュール)

#### 1. スケジュール作り

事業が計画とおりに実施されているかの確認をします。事業が導入される時には事業計画書が作成されます。事業計画書の様式は各自治体によって異なりますが、住民グループやスタッフとして関わる地域住民にもわかりやすい事業計画書も同時に必要です。

近年、防災計画などの策定においてもタイムラインと呼ばれる具体的な行動計画や進行に合わせた役割分担計画などの必要性が求められています。どの時点で具体的に何をすべきかということ事前に明確にしておくことが目的とされていますが、地域の健康づくりの事業の導入においてもタイムラインを明確に決めることによって、それぞれの役割が何をすべきかがよりわかりやすくなります。以下は、社会参加や認知症予防のための絵本の読み聞かせ事業を自治体に導入する際のタイムラインです。こうした資料は事業や活動の進捗を把握するため、また関係者や住民に説明するためにもわかりやすいものを作成するとよいでしょう。

#### 社会参加とヘルスプロモーションのための絵本読み聞かせ事業の展開例

